

提出日 令和 8年 2月 11日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
2025年度漢字まなび活動助成制度 活動報告書

団体名: 福島県漢字同好会

代表者名: 会長 八重樫 一

下記の活動について活動を終了いたしましたので、報告いたします。

1. 活動名	澁澤 尚教授 特別講演会		
2. 活動日 活動期間	令和7年11月30日(日)		
3. 活動場所	郡山市 市民交流プラザ 大会議室 (郡山駅前 ビックアイ7階)		
4. 活動目的	漢字に親しみ、興味をもっていただくこと。 漢字文化への理解を深めること。		
5. 対象	対象 同好会会員・一般の方(漢字に興味のある方ならどなたでも)		
6. 参加費	無料		
7. 参加人数	75	名	内訳(小学生 名、中学生 名、高校生 名、一般 75名)
8. 活動結果 (自由記述・写真貼り付け等可)	1 演題 漢字と古代音楽の世界～『論語』と字源を糸口にして～ 2 内容 古代の人々にとって音楽とはどんな存在だったのか。 『論語』や漢字の字源を手がかりに、現在まで残された数々の資料をひも解きながら音楽に込められた人々の思いについてわかりやすく解説いただいた。 3 感想 孔子も音楽を学び親しみ、論語の中に『楽』についての記載が多く残されていることを初めて知った。 孔子自身も琴を習ったり楽曲に感動する様子に、歴史上の人物だった孔子を身近に感じることができた。 また、音楽と歌謡の文字をたどることで、医:邪霊を払う弓矢の音、楽:神々を楽しませる鈴の音 など、文字の中に古代の人々の思いが残されていることを知ることができた。 最後に、紀元前の曾侯乙墓と晋候蘇墓から発掘された副葬品に楽器類が多く、発掘された鐘に刻まれた銘文から、神々と祖先の霊に鐘を捧げ幸福を願う切実な思いが伝わってきた。古代の荘厳な鐘の音に感動した。 古代の音に興味があるという聴覚障がい者から聴講希望があり、手話通訳をお願いしながらの講演会だったが、目に見える資料が多くわかりやすいと、大変好評だった。		

以下の資料を必ず添付して申請してください。

☒ 【様式2-2】漢字まなび活動助成制度 収支決算書☒ 収支決算書に記載した費目の領収書のコピー(折り曲げず、領収書貼付用台紙に貼り付けて提出ください)

・複数ページにまたがっていただいても結構です。

・本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えないものをご提供ください。

書類の送付先

公益財団法人 日本漢字能力検定協会「漢字まなび活動助成」係

メール:planning@ic.kanken.or.jp

郵送:〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地